

屋子母海岸

穏やかな海と潮溜まり

屋子母海岸は沖合およそ 200m にあるバリアリーフによって波から守られています。バリアリーフは海岸を訪れた人が泳いだり遊んだりできる穏やかな水域を作り出しています。サンゴ礁は沖永良部島の大部分を取り囲んでおり、多数の魚やその他の海の生物を呼び寄せています。屋子母はシュノーケリングをしたり泳いだりしながらサンゴ礁や海の生物を見るには沖永良部島でも屈指の場所です。潮が引くと、中に入りやすい潮溜まりが数多く現れ、岩間の小さな生態系を垣間見せてくれます。

ホエールウォッチングと与論島の眺め

1 月から 3 月にかけて、ここにはザトウクジラが北の冷たい海からやってきて子を産み育てます。ザトウクジラは大きい個体では体長 15 メートル、体重は 30 トンにもなります。沖合からクジラたちが泳いだり、ジャンプしたり、潮を噴いたりしているのが見られます。

晴れた日には、屋子母から海の向こうに与論島が望めます。与論島は奄美群島で最も小さい有人島です。

その他の見どころ

海岸線沿いの植生には、甘い香りで知られるタコノキ属のアダンがあります。

浜の裏手にある墓地には、沖縄様式の墓石と日本様式の墓石の両方があり、沖永良部島に影響を与えてきた混合文化を反映しています。

無料のシャワーとトイレが利用できます。

屋子母海岸は、奄美群島国立公園の特別地域に指定されています。奄美群島国立公園は 2017 年に設立され、奄美群島全域を包含しています。